

みいさん

奈良県

むかし、あるところに、貧乏なお百姓ひやくしやうと嫁さんよめが暮らくしていました。

あるとき、赤んぼうが生まれましたが、生まれた子は、皮をかぶったへびでした。嫁さんは、へびに「みいさん」と名前をつけて、家の裏にはなしてたいせつに育てました。

ある年のこと。何日も雨が降らず、日照りがつづき、田んぼも畑もみななかれてしまいました。村の人たちは困りはてました。

嫁さんは、

（そうだ。へびは龍りゆうのお使いだというし、あの子に、雨を降らせてくれるよう頼んでみよう）と思いました。そして、裏に出て、みいさん呼びました。嫁さんが、

「日照りがつづいて困ってるんだよ。おまえ、三日のうちに雨を降らせてくれないか」と頼むと、みいさんは、黙だまつてうなずきました。

そこで、嫁さんは、庄屋しやうやさんのうちへ行って、

「うちのみいさんが三日のうちに雨を降らせてくれますから」といいました。そして、家に帰ると裏に出て、「雨を降らしておくれ」と祈りつづけました。けれども、雨はなかなか降って来ません。

いよいよ三日目になりました。嫁さんが、

「どうか、今日こそ、雨を降らしておくれ」といったとたん、雷が鳴り、ものすごい雨が降ってきました。

田畑はうるおい、村じゆう国じゆうが大よろこびです。

おかげでその年は大豊作だいほうさくになりました。村の人たちは、みいさんのおかげだと、祠ほこりをたてておまつりしました。

それからのち、嫁さんの家はお金持ちになって栄えたそうです。

おしまい。

村上郁再話

資料 『子どもと家庭のための奈良の民話』 村上郁再話／京阪奈情報教育出版